



第30回北勢線の魅力を探る

藤原岳を望んで巡る里の春

阿下喜駅周辺 約9K

阿下喜駅—石神社—妙宗寺—春日神社
—瀬木自治会館—佐藤儀左衛門の墓
—猪毛利谷神社—桐林館—阿下喜駅



春日神社



畑井水 佐藤儀左衛門の墓



妙宗寺

瀬木自治会館

藤原高

鎌田橋



猪毛利谷神社

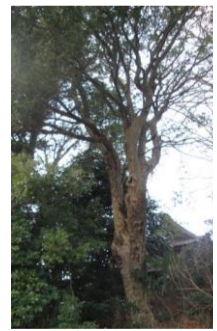


桐林館



石神社

前橋



カゴノキ

阿下喜駅

北勢線

阿下喜駅



第30回北勢線の魅力を探る

藤原岳を望んで巡る里の春

阿下喜駅周辺 約9K

2018年4月発行

北勢線の魅力を探る会



○石神社

祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと・応神天皇）など11柱。中世、石川は伊勢神宮領であった。江戸時代は八幡宮と称して石川・東禅寺両村の氏神であった。延喜式内社の一つとされるが、飯倉の石神社説や下野尻の春日神社説など異説もある。

境内のカゴノキは樹皮が丸い薄片になって点々とはげ落ち、その痕が鹿の子模様になるのでカゴノキと呼ばれる。当て字で「火護の木」とも書く。

○妙宗寺

藤原山妙宗寺は浄土真宗本願寺派の寺で、文化8年（1811）10月、現京都市下京区に於いて僧知元によって創建された。明治15年（1882）光淳の時、県の許可を得て当地に移転した。

○春日神社

少彦名命（すくなひこなのみこと）を主祭神として相殿に天児屋根命（あめのこやねのみこと）など春日祭神4座と磐長姫命（いわながひめのみこと）を祀る。

祭礼の際に社頭に石を投げる投石神事があったが、応永12年（1405）に石投げの争いがあったから中止となった。当社の例祭に奉納される獅子舞は「狂乱牡丹の舞」と称され、市の無形民俗文化財に指定されている。

○瀬木の畑田井水

瀬木（せぎ）はもと阿下喜村の枝郷で、寛永17年（1640）に分離、村を立てた。『勢陽

五鈴遺響』は村名の由来を「水崖ニシテ堰ノ義ヲ名トセリ」と記している。水に恵まれず耕作地のほとんどが畑地であったため、享保期（1716～36）、庄屋の佐藤儀左衛門は桑名藩の許可を得て、水路の開削に着手した。山・谷を穿つ難工事であったが、他村の応援を得るなどして員弁川からの取水に成功、井渠を流れる水は9町歩を水田とした。

村の北、山中に享保十九年四月二十七日、享年六十歳と刻まれた佐藤儀左衛門の遺徳碑が建っている。

○猪毛利谷神社

猪毛利谷（いもりたに）神社の祭神は素戔鳴尊（すさのおのみこと）・伊香我色男命（いかがしこおのみこと）など8柱。『文政七年（1824）瀬木村明細帳』に「神祠に牛頭天王・山神」とあり、のち伊香我色男命を、さらに明治41年（1908）その他を併せ祀った。

地元の伝承によれば、集落の川上7里の所を流れていた谷川「イモリ谷」に鎮座していた猪名部神社が、霖雨の時節に洪水に遭って流出し、この地に止まったので社を建立して氏神とし、もとの鎮座地を社名としたといわれている。

○桐林館

昭和59年（1984）に開館した桐林館（とうりんかん）は、地域の自然・教育に関する資料や文化財の保存・展示施設である。この場所は旧阿下喜小学校の跡地で、昭和12年（1937）に建てられた旧校舎の玄関付近の一部を移築して残したものである。平成26年（2014）国の登録有形文化財となった。